【岐阜女子大学】メタデータ項目と記述内容

	メタデータ項目	メタデータ記述欄
1	ID	
2	表題名	沖縄の世界遺産
3	資料名	首里城復興
4	内容分類	施設・建造物
5	索引語	首里城火災，首里城復興，世界遺産，文化財
6	説明	**１．首里城火災** 琉球王国誕生以来，琉球文化・歴史の象徴であり，沖縄県民の誇りであった首里城正殿を含む建物８棟が，2019 年（令和元年）10 月 31 日未明に発生した火災により焼損した。火災により焼け落ちていく首里城の姿は，県民のみならず，多くの国民や世界各国の人々に大きな喪失感を与えた。 **２．首里城復興と木挽式（こびきしき）** 首里城の修繕や復興は「木挽式」とよばれる祭事から行われていた。「木挽式」とは琉球王国時代から首里城の造営や修復のための御材木（おざいもく）を運んでくる際に行われる由緒正しい祭事であり，琉球王国時代には首里城正殿の修築のために 60 年に一度行われてきた。神聖な首里城のために使う木材の運搬は琉球王国の人々の特別な想いが込められている。 首里城の造営や修復のための御材木は主に沖縄本島北部のヤンバル（山原）から切り出しており，ヤンバルは古来より首里城や建物の修理，修繕に用いられる木材の供給として重要な場所であった。そのため，琉球王府は，森林の管理のため，『林政八書』（りんせいはっしょ）*の通達により木の伐採や使用を厳しく規制していた。 ＊『林政八書』（りんせいはっしょ）とは 王府時代の林政書。蔡温（さいおん）の三司官時代に公布された 7 つの森林法令と，1869 年（明治 2）に示達された森林関係の訓令を加えて，85 年に沖縄県から発行。一般に蔡温の著書といわれている。蔡温は，学事・土木・治水・工芸・農政・林政の経論を実施したが，最も力を注いだのは林政の確立で，自ら諸奉行を従えて長期にわたって中頭・国頭地方の森林を巡視したり，森林法令の公布などをおこなった。（引用：『沖縄大百科事典 下』，林政八書，沖縄タイムス社，P970，1983.） 琉球王国時代，首里城建造のための大きな木材を切り出したのち，国頭村（くにがみそん）の西にある鏡地（かがんじ）浜まで大勢の人で曳き，港から船で首里の港に運ばれ，首里城へ運ばれた。北部の国頭村奥間集落の人たちが木材を運ぶ際に歌った木遣歌は祭礼の歌は「国頭サバクイ（くんじゃんさばくい）」という沖縄を代表する山唄，木やり唄，および伝統芸能として現在に継承されている。 琉球新報デジタル（https://ryukyushimpo.jp/okinawa-dic/prentry-41261.html）には，国頭サバクイについて「沖縄を代表する木遣り歌。サバクイとは地方役人（間切の番所役人）の役職名。昔，首里王城の造営・改築

		の際，国頭間切奥間後方のナゴー山で伐採した木材を運搬するときにうたったもの。労働祭事，奉納芸としての予祝性も強い。」と説明文が掲載されている。国頭サバクイの歌詞は以下のとおりである。 **国頭サバクイ（くんじゃんさばくい）** 【歌詞】 1　首里天加那志ぬ（ヨイシーヨイシー）御材木だやびる（ハイユエー ハーラーラ サーハリガヨイシー サーイショショショーショ イーイヒヒヒーヒ アーアハハハーハ） 2　国頭サバクイ（ヨイシーヨイシー）御嶽ぬ前から（ハイユエー ハーラーラ サーハリガヨイシー サーイショショショーショ イーイヒヒヒーヒ アーアハハハーハ） 3　名護山かしじゃ（ヨイシーヨイシー）重さぬ引からん（ハイユエー ハーラーラ サーハリガヨイシー サーイショショショーショ イーイヒヒヒーヒ アーアハハハーハ） 4　御万人 間切や（ヨイシーヨイシー）皆肝揃とてぃ（ハイユエー ハーラーラ サーハリガヨイシー サーイショショショーショ イーイヒヒヒーヒ アーアハハハーハ） 【歌意】 1　首里国王様の御材木です 2　国頭村役人の指示で　御嶽の前から 3　名護山の樫の木は重たくて引けぬ 4　万人の間切よ　みな心をそろえて（こそ曳くことができる） 【説明】 国頭サバクイは，国頭地方の役人（国頭サバクイ）と島の若者たちが材木の切り出し，運搬の様子を歌ったものである。北部の国頭村奥間では各農村でシヌグ，ウンジャミなどの祭りののちに女性のみで行う祭祀“ウシデーク（臼太鼓）”の後に行われる伝統芸能として伝わり，伝統芸能として発展をしながら現在も奥間で伝承されている。 （参照：関洋（たるー），『たるーの島唄まじめな研究』，国頭サバクイ，https://taru.ti-da.net/e692179.html，公開 2006 年 02 月 24 日（アクセス 2023/01/07）） 令和の首里城復興においても，「国頭フェスティバル」を皮切りに「木曳パレード」，「那覇フェスティバル」，「御材木車展示会」，「木遣行列」など，さまざまなイベントが開催された。 **３．国と沖縄県の「令和の首里城復興」の方針** 国と沖縄県は首里城正殿等の復元に向けて，正殿をはじめとした「首里城復元」，復元の現場や過程を一般へ公開・発信する「段階的公開」，それらの実施をとおした「地域振興・観光振興への貢献」の三本柱を掲げて取組みを進めている。 特に「首里城復興」については「見せる復興」をテーマに，首里城復旧・

復元作業を進めている。そのため，昨年から始まった正殿工事に伴って施設跡地や御庭（うなー）には木材倉庫が設置され，北殿側の城壁沿いに全長 110 メートルの仮設デッキを新たに整備された。

図 1.「見せる復興」北殿側の城壁沿いに全長 140 メートルの仮設デッキ

他にもガラス張りの見学エリアが 2021 年 10 月 1 日にオープンし，10 月末からは一般公開され，再建に向けた作業の様子を見学できるようになった。首里城復興展示室では，火災前まで首里城正殿の屋根上に設置されていた獅子瓦や首里城正殿を彩っていた小龍柱や石獅子，石高覧等の石彫刻の残存物などを展示している。

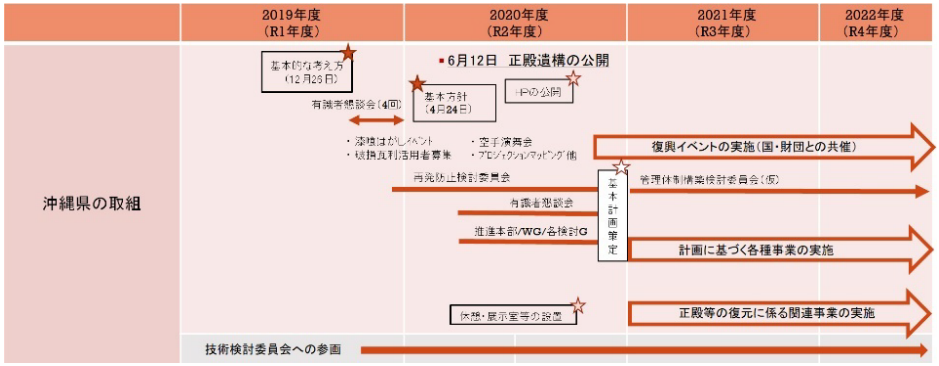


図 2. 首里城復興に向けた沖縄県の取組み
（沖縄県公式首里城復興サイト「首里城がつなぐ過去から未来へ」より）

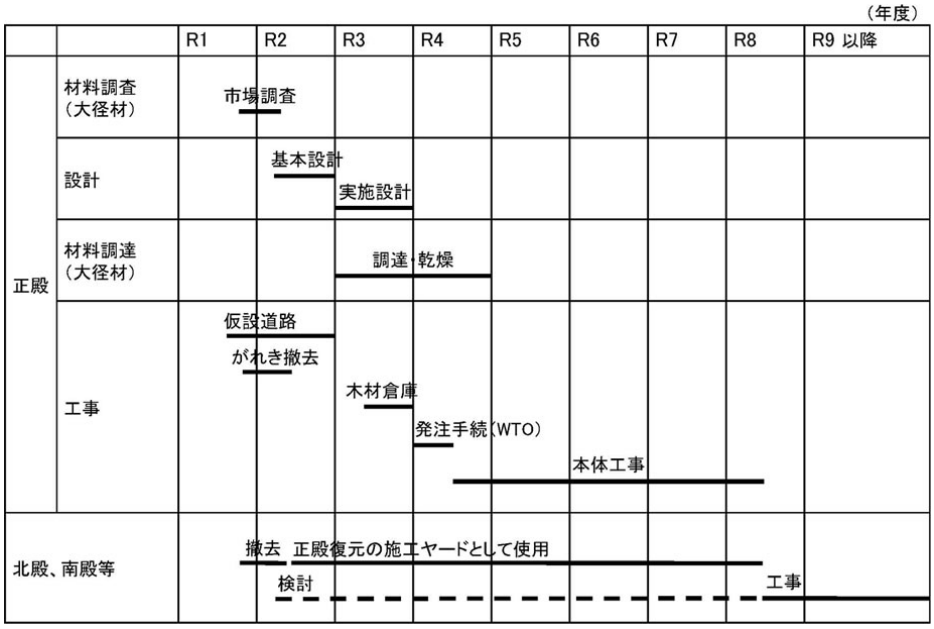


図 3. 首里城復興に向けた国の取組み
（沖縄県公式首里城復興サイト「首里城がつなぐ過去から未来へ」より）

すでに首里城正殿再建のための木材加工場や原寸場は完成し，2023 年度は正殿を屋内で作れるように巨大な素屋根が作られ，2026 年秋には正殿が完成予定である。

焼失した首里城復元への活用を目的とした「沖縄県首里城復興基金」には令和4年3月末日までに55億2,994万円余りが国内外から寄せられた。

４.「見せる復興」

2019年10月31日首里城で発生した火災から約3年が過ぎ，現在，新たな沖縄県民の心のよりどころ，沖縄のシンボルになるよう，2026年の完成をめざして首里城復興に取り組んでいる。有料区域では「見せる復興」をテーマに，北殿側の城壁沿いに全長140mの仮設デッキを整備して復興現場全体を見渡せたり，世誇殿（よほこりでん）で首里城ムービーが上映されるなど，復興の過程を一般に公開し見ることができるさまざまな取り組みが行われている。

火災の影響を受けながらも奇跡的に立っていた大龍柱は補修作業のため台座から取り外され，仮設補修作業場へ移動して大龍柱の本格的な補修作業が行われた。補修された大龍柱は，新しい令和の大龍柱の見本として活用するまでの間，下之御庭（しちゃぬうなー）の補修作業場で公開されている（図4）。

図4. 下之御庭の補修作業場で公開されている大龍柱

また，首里城復興展示室では，火災前まで首里城正殿の屋根から睨みをきかせていた獅子瓦，首里城正殿を彩っていた小龍柱や石獅子，石高覧等の石彫刻の残存物を展示している。

首里城は琉球王国時代に3度，第二次世界大戦により4度目の火災に遭い，そのたびに再建を成し遂げてきた。首里城では，これまでの復元から現在までの歴史を資料，写真・映像をとおして，これまでの首里城の復興の歩みを見ることができるデジタルミュージアムも開設している。

「見せる復興」には，首里城がよみがえるプロセスをより多くの人に見に来てもらうことにより，琉球の歴史や文化を再認識し，首里城の復興を見守り，待ち望む多くの人の思いを首里城公園の地に集結し，復興を進めていくという力強い望みが込められているように感じた。

５．首里城復興祭

2022年10月29日（土）～11月3日（木・祝）の6日間，首里城公園にて「首里城復興祭」が開催された。これまで首里城公園開園記念行事として開催していた「首里城祭」は今年度から「首里城復興祭」と改称した。

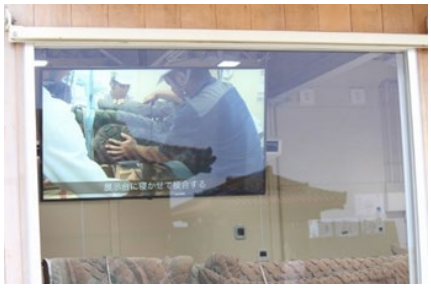
首里城復興祭には首里城復興の機運醸成と地域振興を目的とし，プログラムとしては，鮮やかな衣装に身を包んだ国王・王妃が奉神門前に登場する「国王・王妃出御」，首里城正殿復元に向けて整備していた木材倉庫・原寸場の中をみることができる「首里城復興特別見学ツアー」，琉球王国時代に国王が国家の安寧と五穀豊穣を祈願するために行った「三ヶ寺参詣行幸」を再現した「琉球王朝祭り首里古式行列」，国王・王妃が外出の際に乗っていた御輪

（うちゅう）への乗車体験「国王・王妃御轎乗車体験」など，さまざまなプログラムが用意された。

また，琉球舞踊や現代版組踊などの創作芸能などが披露される「琉球芸能公演」，獅子舞や首里音頭，旗頭などの地域芸能が行われる「木遣イベント」などのパフォーマンスも披露され，琉球王国時代にタイムスリップしたような体験ができる。

沖縄県が公開している「令和 4 年度首里城復興祭報告書」には，入園・入場者数は，6 日間合計入園者数は 26,451 人（令和 3 年度実績：14,441 人），入場者数は 13,161 人（令和 3 年度実績：9,443 人）と記録されている。

現地調査で撮影した画像（一部）



首里城の修復している様子を映しているモニター

首里城火災で残った大龍柱

残された階段と正殿の柱礎石

首里城復元に向けた取り組みが書かれたパネル

実際に見ることができる復興の様子

正殿の屋根にあった龍頭の残った一部分

		 正殿の屋根にあった龍頭棟飾の残ったもの 覆屋の中にある首里城正殿基壇遺構 万国津梁の鐘（複製） 首里城火災後に残った赤瓦の破片
7	形式	静止画（jpg）
8	氏名	撮影者：大城愛恵
9	時代・年	
１０	地域・場所	〒903-0815 沖縄県那覇市首里金城町
１１	利用条件	表示 4.0 国際（CC BY 4.0)で提供
１２	関連資料１	なし
１３	権利者	岐阜女子大学
１４	協力者	なし
１５	登録日	2022/12/03
１６	登録者	大城愛恵
１７	ファクトデータ	circd091k-0068.jpg

１８	＊特色	■　首里城とは 首里城は「琉球王国」が成立した 1429 年から沖縄県が誕生した 1879 年までの約 450 年間，琉球王国の中心的な城だった。琉球王国時代の首里城は，3 つのゾーンで構成されていた。政治・行政のゾーン，国王とその家族が生活するゾーン，祈りのゾーンである。 首里城公園の公式ホームページによると，首里城は王国期に 3 回，焼失した。①1453 年（王位争奪の「志魯・布里の乱」により全焼）②1660 年（失火により全焼。財政難で 11 年後に再建）③1709 年(失火と見られる。6 年後に再建)。日本の沖縄県になってからは 1945 年の沖縄戦にて地形が変わるほど破壊しつくされた。終戦後は，首里城復元の構想が強まり，沖縄本土復帰 20 周年にあたる 1992 年（平成 4 年）11 月 3 日に正殿，瑞泉門などの復元完成により一部開園され，2000 年（平成 12 年）には史跡「首里城跡」が「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の一つとして日本で 11 番目の「世界遺産」に登録された。その後も整備が続けられ，2019 年（平成 31 年）2 月に御内原・東のアザナエリアが開園し全面開園となった。 かつて琉球は小国でありながらも諸外国に船を通わせ,近隣国と良好な関係を構築し繁栄を遂げた。このような琉球王国の歴史の中心には首里城があり，首里城は、まさしく万国津梁（世界の架け橋）として，独自の発展を築いてきた沖縄文化の象徴であり、沖縄県民の宝であり、心の支えでもある。 ■　首里城復興基本計画とは 国と沖縄県は首里城正殿等の復元に向けて，正殿を皮切りとした「首里城復元」，復元の現場や過程を一般へ公開・発信する「段階的公開」，それらの実施を通した「地域振興・観光振興への貢献」の三本柱を掲げて取組みを進めている。その中でも特に今回の首里城復興は，「見せる復興」をテーマに，首里城復旧・復元作業を進めている。 火災後の北殿側の城壁沿いには全長 140m の仮設デッキを整備して復興現場全体を見渡せるようになり，再建の過程を見学できるように工夫されている。首里城復興展示室の中では，正殿の彫刻や瓦を葺いているところ・正殿の屋根の龍頭棟飾りを設置している様子などの映像が上映されている。 琉球王国時代に 3 度，第二次世界大戦で 4 度目の火災に遭い，そのたびに再建を成し遂げてきた首里城。これまでの復元から現在までの歴史を資料,写真・映像を通してこれまでの首里城の歩みを見ることができるデジタルミュージアムも開設され，復興していく首里城の様子を身近に見ることができる。 「首里城復興基本計画」（以下,「復興基本計画」という。）は，基本方針で示した主な施策について,具体的に取り組む際の方向性等を体系的に定め，首里城復興を計画的に推進することを目的としている。 また，県民はじめ多くの人びと，企業・団体等及び行政・大学・関係機関等が， 復興基本計画を共有することで，20 年，50 年先の未来を見据え，連携・協働して，首里城に象徴される沖縄の歴史・文化の価値を確実に次世代へ継承し，それぞれの時代にふさわしい新たな文化創出など沖縄発展の礎として首里城復興に継続的に取

		り組んでいる。
１９	**＊活用支援**	
２０	**＊利用分野**	教育，生涯学習，地域学習，観光
２１	**＊改善結果**	
２２	**＊処理プロセス**	
２３	**＊関連資料２**	